

企画展「これだけは見ておきたい 日本洋画の歩み」

- 1 趣 旨 日本洋画の歩みを明治から現代までの代表的な画家の作品、約60点で紹介する。
主な作家は、幕末・明治にかけて西洋から入ってきた絵画を学んだ高橋由一、明治時代に西洋に留学して印象派の画風を取り入れたアカデミズム絵画を学んだ黒田清輝、大正時代や太平洋戦争後に活躍した作家など46名の作品を展示する。

- 2 概 要
 - (1) 名 称 企画展「これだけは見ておきたい 日本洋画の歩み」
 - (2) 会 期 7月8日(土)～9月24日(日)
 - (3) 所 在 地 栃木市入舟町7-26
 - (4) 開館時間 午前9時30分 から 午後5時 まで
 - (5) 休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌日に振替)
 - (6) 展示場所 展示室A,B
 - (7) 展 示 数 約60点
 - (8) 主な展示作家 高橋由一、浅井忠、黒田清輝、藤島武二、岡田三郎助、熊谷守一、青木繁、坂本繁二郎、萬鉄五郎、梅原龍三郎、安井曾太郎、岸田劉生、中川一政、岡鹿之助、向井潤吉、市ゆかりの作家(橋本邦助、清水登之、刑部人)ほか28名
 - (9) 観 覧 料 一般・大高生 800(640)円、中学生以下無料
()内は20名以上の団体料金
 - (10) 関連イベント ①学芸員によるギャラリートーク
7月8日(土)、8月6日(日)、9月10日(日)
各回14時～(1時間程度)
②学芸員によるキッズギャラリートーク
7月29日(土)14時～
8月20日(日)10時30分～
予約不要、当日の観覧券が必要。

- 3 展示構成 展示室A,Bを使い草創期から現代までの日本洋画の歩みをわかりやすく展示する。教科書に図版の掲載されるような画家とともに、栃木市ゆかりの画家の作品もあわせて展示し、彼らが日本近代洋画の歴史の中に残した足跡も示す。

- 4 主 催 栃木市教育委員会、栃木市立美術館
- 5 協 力 公益財団法人日動美術財団
- 6 そ の 他 収蔵品展 I（企画展と同時開催）
- ・会 期 7月8日（土）～9月24日（日）
 - ・展示場所 展示室 C
 - ・展 示 数 約 10 点
 - ・主な作品 平成 30 年度から令和 4 年度において寄附・購入した作品などで、主に令和 4 年度に寄附いただいた橋本邦助の《夕月》（大正 2 年 絹本着色・軸）、河井寛次郎の《切子碗》（昭和 25 年・陶）、《鳥陶板》（昭和 25 年・陶）、齋藤文石《花籃》（昭和 40 年・竹）などを展示する。
 - ・観 覧 料 一般・大高生 330（260）円 中学生以下は無料
（ ）内は 20 名以上の団体料金

問合せ： 美術・文学館課
担 当： 河野
電 話： 0282-25-5300